

暗唱のすすめ 百人一首編⑤

いまこん いイ ながつき

二十一 今来むと言ひしばかりに 長月の

ありあけ つぎ ま い

有明の月を 待ち出でつるかな



そせいほうし
索性法師

ふ あき くさき オ

二十二 吹くからに 秋の草木の しをるれば

やまかせ あらし ウ ン

むべ山 風を 嵐といふらむ



ふんやのやすひで
文屋康秀

つきみ かな

二十三 月見れば ちぢにものこそ 悲しけれ

みひと あき

わが身一つの 秋にはあらねど



おおえのちさと
大江千里

エ たむけやま

二十四 このたびは ぬさもとりあへず 手向山

もみじ にしき かみ

紅葉の 錦 神のまにまに



かんけ
菅家

な ワ おうさかやま ズ

二十五 名にしおはば 逢坂山の さねかづら

たみ

人にしられで くるよしもがな



さんじょうのうだいじん
三条 右大臣